

平成28年度 第1回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成28年7月27日(水)午後2時30分～午後4時45分

◇ 会 場 県立熊谷図書館 鑑賞室

◇ 出席者 (1) 出席委員  
金子貞雄委員 小西宣子委員 深堀敬治委員  
安藤正徳委員 中村公雄委員 早川恭子委員  
吉田征人委員 若松昭子委員 渡部貞一委員

(2) 図書館職員

【県立熊谷図書館】

代島館長 大嶋副館長 関副館長 木村教育主幹  
荻原主席司書主幹 蓮見司書主幹 石井主事 西主事

【久喜図書館】

及川館長、松田副館長、銭場教育主幹

(3) 教育局職員

【市町村支援部】

阿部副参事

◇ 会議次第

- 1 開 会 [熊谷図書館 木村教育主幹]
- 2 任命状交付 (小西委員、深堀委員) 県立熊谷図書館 代島館長
- 3 あいさつ 県立熊谷図書館 代島館長
- 4 委員紹介
- 5 会長・副会長選出  
委員の互選により、会長に若松委員、副会長に早川委員を選出した。
- 6 会長・副会長あいさつ
- 7 職員紹介
- 8 平成27年度第3回会議録報告  
全出席委員、異議なく承認された。
- 9 会議録署名委員の指名  
会長が、吉田委員と渡部委員を指名し、了承された。
- 10 会議の公開について議決  
傍聴希望者はいない旨の報告

## 11 議 事

- (1) 平成27年度事業実施状況について
- (2) 平成28年度予算及び事業について

〔熊谷図書館 大嶋副館長〕

平成28年度要覧に基づき平成27年度事業実施状況並びに平成28年度予算及び事業について説明。

### 【質疑】

委員／27年度の利用状況の中で、三館体制が二館体制になったことで数字が下がっている。行政サイドから見たその辺の妥当性について聞きたい。  
事務局／専門書を中心に収集し県民の課題解決に役立つという、県立図書館の本来的使命を念頭におくと、個人貸出冊数については、ある程度下がるのもやむを得ない部分がある。県立図書館は、例えば人気作家の小説を買いそろえることはやっていないので、個人貸出冊数を増やすことも非常に大事だが、役割を考えればやむを得ない。個人貸出冊数に対して、参考調査（事項調査）件数の推移は、昨年度は休館などの事情で少なくなったが、26年度までは順調に伸びてきている。これは課題解決という観点から申すと、本来的に伸びてしかるべき指標であり、今後さらに伸ばしていき、数年の内に26年度ベースに戻したいと考えている。基本的に県立図書館の使命として、今後伸ばしていかなくてはならないサービスについては、重点的に取り組んでいきたい。

委員／個人貸出冊数や年間来館者数が下がってくるのは理解できるが、ウェブサイト・トップページのアクセス件数がなぜこれほど減っているのか、また、市町村立図書館等への図書資料貸出冊数が同様に減っているのはなぜなのか。個人貸出冊数が減るのはわかるが、トップページへのアクセス件数は増えると思っていた。その辺の見解を聞きたい。

事務局／トップページのアクセス数の件だが、ウェブサイトを大幅に改変し、新しくしたときに最高値をカウントしており、その後徐々に減っている状況である。確たる理由はわからないが、例えば、検索に慣れて蔵書検索ページや興味のあるページを直接訪問する方や、グーグルなどで検索し結果的にトップページを経由しないで直接蔵書検索ページなどにアクセスする方などが増えてきたためかと考える。この後、今年度以降の数値目標について話す予定であるが、そこで新しいカウントの仕方も検討中であることを説明させていただく。

続いて、市町村図書館への貸出数だが、要覧18ページ、27年度の利用状況の一番上にある開館日数を見ると、熊谷図書館は、図書館の再編整備に伴う資料の移動のため対前年比で約100日間少なく、久喜図

書館は、耐震改修工事のため対前年比で約30日間少なくなった。休館中は、窓口だけではなく資料の貸出もストップしたので、それがそのまま27年度の市町村図書館への貸出数に影響した。

事務局／市町村図書館への貸出数について補足すると、確かに休館があったのでサービスの統計数字は、軒並み対前年度6割、7割だが、この市町村図書館への貸出数は対前年度83パーセントという数字になっている。休館があった中では健闘した数字を確保したと考えている。

委員／トップページのカウンタだけではなく、今後は、蔵書検索サイトへのアクセスカウンタができるようになるのか。

事務局／そうである。

会長／18ページに利用状況の「1 サービス活動」にトップページ画面のアクセス件数があり、その下に検索画面アクセス件数があるが、このあたりの話なのか。これは実際にどういう状況なのか。

事務局／トップページのアクセス件数は徐々に右肩下がりにになっているが、図書検索のページや県内の公立図書館全ての蔵書を検索ができるページについては、右肩上がりとはまではなっていないが、かなりの水準のアクセス数を維持している。

会長／休館の4か月間、トップページは、新しい情報が付け加わることなく、メンテナンスだけだったのか。

事務局／久喜図書館、熊谷図書館は同時に休館していなかったもので、熊谷図書館の休館時期には久喜図書館でイベントを継続していた。トップページにはその時々サービス・行事の案内とか、ブログで熊谷図書館休館中の情報を流していた。

会長／入館者数、貸出数は前年度比で大幅に下がっても仕方がないが、休館でも普段と変わりなくアクセスできたはずのトップページへのアクセス数が実際には下がっている。それでよろしいか。

事務局／トップページについてはそういう状況であった。

委員／一般的にホームページ、トップページは、5年、6年経つと大体がリニューアルしている。その時々状況に応じて、トップページで出す内容とか、検索の入口とか、それをいろいろ模様替えして、アクセスを呼ぶ新しい視点や魅力を持たせる工夫をしている。そういう工夫があってもいいのではないか。

会長／検索に直接入ることは非常に重要なことであるし、有効なものだと思うが、埼玉県立図書館の魅力やサービスをアピールするには、やはりトップページに来ていただかないと困る。以前にもトップページを魅力的に作ろうとの意見がでていたが、そのあたりは改善されたのか。

事務局／熊谷図書館がリニューアルオープンした際にトップページも見やすく

変えた。トップページから入る各サービスのページについては、まだ完全にリニューアルしていない部分もあり、その辺は課題である。これから説明する3年間の目標設定の中で考えていきたい。

委員／トップページのアクセス数が下がっているのは昨年だけの話ではなく、連続的に下がっている。今、全国的に図書館がいろいろな形で話題となっている状況の中で、埼玉県立図書館を魅力あるものにするために、何かやってみたいことはあるのか。

事務局／熊谷図書館にはビジネス支援室という目玉がある。県北地域は、人口減少とか、活性化が地域の課題であると聞いている。県北地域に立地していることを利用して、県北地域の活性化に貢献できるよう、ビジネス支援サービスを地域の方に認識していただく。また、県北地域だけでなく、中小企業中央会等の全県的な経済団体の力添えをいただきながら、全県的にビジネス支援が知られ、利用いただけるよう努めていく。また、利用する際は熊谷図書館に来ていただく必要があるが、データベースについてもアピールしていきたい。

事務局／久喜図書館からは3点ほど申しあげる。久喜図書館には「見て・聴いて・感じる読書コーナー」というものがある。そこには障害者だけではなくて、高齢者の方や特別支援学校のお子さんが利用できるマルチメディアデイジーなどがあり、これは力を入れてやっていきたい。2点目は、平成20年度ごろから職員が築き上げてきた健康・医療情報サービスについてである。久喜図書館に行けば詳しい資料があるということが知られてきているので、今後も利用を広げていきたい。3点目は、グラフが要覧の20ページにあるが、参考調査に力を入れ、課題解決型図書館を目指していきたい。

### (3) 平成27年度埼玉県立図書館の重点目標の実績について

〔熊谷図書館 荻原主席司書主幹〕

資料1に基づき、平成27年度埼玉県立図書館の重点目標の実績について説明。

#### 【質疑】

委員／「指標2 年間図書受入冊数」のところで、昨年度の寄贈資料の受入冊数が下がっているのはなぜか。

事務局／販売されている資料については、書誌データが用意されているので受入にさほど手間がかからない。一方、寄贈本については、職員が手入力で書名等を入力する作業を行うので手間がかかる。着実に予算執行を行う必要もあり購入資料を優先させて整理した。

会 長／この数字は実際の受入冊数ではなく、受入登録完了の数字なのか。受入登録が済んでいないものもあるのか。

事務局／そういうことがないように心がけているが、実際にはあるかと思う。

会 長／寄贈元機関の予算が減って、資料の発行が抑えられたために寄贈が少なくなったということもあるのか。

事務局／そこまで影響があるかは分からない。

会 長／図書館外の、寄贈する側の状況は把握していないのか。

事務局／寄贈資料には、黙っていても送られてくるものもあれば、様々な出版情報を駆使して、こちらから依頼するものもある。その依頼は、手間がかなりかかるものなので、優先順位が下がってくることがある。

委 員／利用者満足度調査について、若干目標値を上げたが達成しなかった。ここの取り組みについて、どう考えるか。

事務局／満足度は非常に重要な指標と思っている。この後、説明する新しい重点目標の評価に満足度を入れようと考えている。どうすると満足度がどう上がるのか、今一つわからない部分があり、今後の研究課題である。

会 長／障害者サービス資料の利用数について、テープの利用が減っており、またテープそのものが生産されていないとのことだが、これはデイジー資料が関係しているのか。テープで提供されていたものについては、今後利用できないということになってしまうのか。

事務局／テープ資料は、埼玉県立だけではなく全国的に過去のタイトルのものをデイジーに置き換える作業が順次進められている。最終的な到達点がどこになるかわからないが、全国の点字図書館、公立図書館、関係機関等で進めているので、いずれ遡及でデイジーとして利用できるようになるかと思う。これまで作成したテープ資料については、引き続き利用が可能である。

会 長／要覧で説明いただいた参考調査件数について、評価指標ではレファレンス件数となっている。これは、一つの用語に統一することは難しいのか。例えば、参考調査件数は、全国的な統計で使用する語なので変えられないといったことがあるのか。

事務局／特に使い分けはしていない。これはどちらかに統一しなければならぬものと考えます。

会 長／それは埼玉県立図書館独自に変えてよいレベルのものか。

事務局／レファレンス件数の意味は、各図書館で幅があり、例えば、これから説明する埼玉県立図書館の評価指標のレファレンス件数は、所蔵調査件数と事項調査件数、それと利用案内件数も含めてトータルで考えている。図書館によっては、この項目は入れないということがあるので、全国的なレベルでの統一は非常に難しいと思うが、少なくとも埼玉県立図書館

では統一すべきと考えている。

(4) 平成28～30年度埼玉県立図書館運営の重点目標及び重点取組について

〔熊谷図書館 荻原主席司書主幹〕

資料2に基づき、平成28～30年度埼玉県立図書館運営の重点目標及び重点取組について説明。

【質疑】

委員／意欲的な評価指標を示されて非常に期待している。要覧2ページの目標1の取組にあるビジネス支援室のPRについて、大学や高校には具体的にどのようなことをしているのか、あるいはこれからののか知りたい。また、同じく2ページの目標4の取組に子供読書に関わるボランティアの研修会の開催とあるが、ボランティアの活動内容を教えてほしい。

事務局／ビジネス支援室サービスについての大学や高校へのPRだが、高校については7月21日発行の県教育委員会だよりに掲載して、全ての県立高校の教職員にビジネス支援室の情報提供を行った。現在、県の教育委員会では、アクティブラーニングという従来の授業とは違った主体的な学び、学び合いといった新しい授業スタイルを研究開発しており、そういった学習のバックデータを検索する際には、ビジネス支援室のデータベースが非常に有効と考えている。また、商業高校では、ビジネスコンテストなど高校生の企画立案力を伸ばす取り組みがなされているので、やはりバックデータの提供というところでビジネス支援室が役立つと考えている。こうした理由から、商業科のある高校にはビジネス支援室の利用案内を先日郵送したところである。

戦略的広報と最近言われている。一定の効果がありそうな対象に絞って具体的な意図をもって広報を行っていくことであるが、商業科のある高校以外にもことあるごとに広報していきたい。

大学に対しては、現在何も行ってない。今後計画的にやっていきたい。

事務局／県が行う子供読書ボランティアに関わる研修とは、小学校、幼稚園、市町村立図書館等で読み聞かせを行う人を指導する講師養成の研修や、その技術を高めるフォローアップ研修である。市町村や学校から要請を受けて、その講師を派遣している。昨年度は28団体に対して延べ29人の講師を派遣した。

委員／講師の養成には時間がかかりかかるのか。

事務局／講師が高齢化してきたので、補充のために、今年度「おはなしボランティア指導者養成講座」を実施する。各市町村で5年以上読み聞かせの

経験を有する方を対象に募集したところ、60人以上の応募があった。選考を行い、20人の少数精鋭で実施する計画である。期間は9月29日から2月16日まで、計17回行う予定である。

委員／県内市町村立図書館と連携した「図書館と県民のつどい埼玉2016」が今年は12月18日に北本市文化センターで行われるとのことだが、地元でもあり楽しみにしている。内容は決まっているのか。

事務局／詳細については今詰めているところである。昨年度の例だと、記念講演で講師の方をお呼びした。それから高校生、中学生によるビブリオバトル（知的書評合戦）があった。また、このつどいの前身イベントの目的が、県内の子供読書ボランティアに対する研修の場の提供であったので、分科会として子供読書に関わる方の研修会を行った。さらに図書館と県民の方を結びつけるイベントということで、県内の公共図書館、高校図書館、大学図書館がそれぞれのサービスや貴重書を展示する企画があった。

委員／このイベントは毎年違う市で行っているのか。

事務局／これまでは高崎線沿線の市で行っている。この事業自体は、県の図書館協会と県教育委員会の主催事業であり、なるべくお金をかけない方針で行っている。ホールを借りる予算が厳しいこともあり、今までは主に桶川市のさいたま文学館を会場に実施してきたが、今年度は北本市の文化センターを会場として行う予定である。

委員／各重点目標には、行動計画が具体的に上がっていてとても良い。しかし、重点目標5の行動計画4に記載された「図書館と県民のつどい」はすでに黒丸（実施）になっている。「図書館と県民のつどい」は、平成28年度は実施する、29、30年度は継続するとしか読めない。今の話では、28年度から30年度まで、ちょっと違うこともやってみる、少し工夫して行うということだが、その辺のところがこの表記ではわからない。上の行動計画は白丸（計画）と黒丸（実施）が両方表記されているので、何となく新しいこともやると分かるが、段階的にやろうとしているのであれば、この表記では読み取れない。

会長／黒丸は昨年度に引き続きという意味であるか。

事務局／指摘の通り、全く新たな取り組みは白丸である。黒丸でも、毎年微調整をしながら、新しい要素を取り入れながらやって行くつもりである。

会長／行動計画をもっと細かく表記すればわかりやすいかと思う。

委員／ビジネス支援室について、例えば熊谷商工会議所や深谷商工会議所に対してどのような広報や利用連携を図っていくのか。

事務局／地元熊谷市、熊谷商工会議所は、3月にビジネス支援室がオープンしたという知らせをキャッチして、来館があった。会頭など役員の方に利

用登録いただき、総会での展示PRの機会を得た。また、商工会議所の会員に利用登録するよう働きかけるとの心強い応援の言葉があった。深谷市の方はコンタクトを取っていないが、県単位の団体を通じて、全県的に各商工会議所、その他経済団体にこちらの存在を宣伝していきたいと考えている。

委員／高校に広報したとのことだが、高校生がこのデータを利用することはゼロとは言わないが少ないと思う。むしろ、このデータを使うのであれば、商工会議所の会員であろうし、法人会の会員であろうし、そういった会員が使ってこそ生きるデータベースだと思う。働きかけが熊谷商工会議所だけとするともったいない。費用対効果を考えると商工会議所連合会とか商工会連合会とか大きなところに働きかけても、実際に傘下の企業等まで行き届くのか保証の限りではない。高校に送るのであれば、地元の商工会や商工会議所等に直接ダイレクトメールを送る、あるいは企業に送るほうが税金の有効活用になるのではないか。

事務局／いただいた意見を参考にしてこれから進めてまいりたい。高等学校に対する支援はビジネスパーソン育成を念頭において行っているものである。実質的に役に立つと考える商工会議所や創業支援センター等関連する県の団体には、地元に限らず進めているところである。

会長／県立図書館の活動は利用者に直接的に働きかけることだけでなく、間接的に市町村立図書館とか他の機関を通して働きかけることも大きな役割である。この重点目標のうちの、目標3の職員向け研修、目標4の子供読書に関わるボランティアの研修は、主に市町村立図書館で活躍している人たちを支援するという間接的な活動である。このような活動は、なかなか一般県民に見えにくい部分である。そういう活動も同じように県立図書館の活動としてもっと県民に見えるようにして、一般の人たちにもアピールするような広報が求められる。

また、目玉になるような広報戦略が見えてこない印象である。ウェブページなどは身近な広報だと思うが、やや堅いイメージを受ける。もう少し柔らかさを出したり、民間の生き生きとしたトップページを参考にしたりなど、予算をかけてもよいのではないかと思う。

重点目標5で外部メディアの掲載件数が今回指標目標に入っているが、実際にどのような効果的な広報ができるのか。例えば、さいたま市立図書館の場合はどういう状況なのか。

副会長／大して変わりはないと思う。ビジネス支援室の案内というのを見て、こういうものがありますという紹介で終わっている気がする。これはさいたま市立も他の公共図書館も同じであるが、高校生には使いこなせないと思う。ただ、自分たちが就職するとか、どこの会社に決めよう

かといった興味を持った時に、これを全部使わなくてもここに来れば何かヒントがある、図書館に行けばこういう調べ方ができてちょっといいことがある、という思いになる案内があってよいと思う。埼玉県立図書館の現在の案内も、これはこれで、ビジネス支援室で数種類のデータベースを見ることができることや、資料がそろっていることがわかるという点ではよい。ただ、実際にこれらを使うとこんなよいことがあると、もう少しわかりやすい言葉と図を含めて案内や広報があると、それなら行ってみようかという店主もでてくるかもしれない。何か考えている方は、検索ツールで何かを探ってみようと思うかもしれない。図書館なのでどうしても堅くなりがちだが、堅い案内を作った後に少し柔らかいものを取り入れてもらうとわかりやすくなる。ビジネス支援室に行くと何かよいことがあると思ってもらえるようなものがよい。

会長／同じビジネス支援という言葉で県立図書館とさいたま市立図書館で使っているが、一般の人たちには県立図書館と市立図書館の違いがわかりにくい。実質的には同じ部分もあるし、市町村立図書館をバックアップするという部分もある。市立図書館と同じような案内の作り方で違いがよくわからないというのではなくて、県立図書館ならではのサービスがどこかわかるような案内や広報を目指していただけたらという気がする。市町村立図書館はだんだん充実してきていて、そうしたときに県立図書館は三館から二館になって、建物は古いし、狭いし、「じゃあ、市町村立図書館に行けばいいや」という思いに一般の人たちになってしまうと県立図書館の存在感がだんだん弱まってしまう。県立図書館ならではの部分に重きを置く広報に努めていただけたらと思う。

委員／効果的な広報をやっていくとなると、予算の問題もある。広報予算を増やす可能性はあるのか。

事務局／運営予算の中で効果的な広報を行っていきたい。たとえば、データベースは、実際に来て触って見ないとわからない部分もあるが、要覧の14ページには、熊谷図書館に「データベースセミナー」、久喜図書館に「やって納得！情報の探しかた講座」がある。そうした、実際に細かく説明する機会を設けるというのも、わかりやすい利用案内の一例だと思う。ビジネス支援の関係では数年前、浦和図書館時代に小冊子を作っており、好評であったことからその改訂版を本年度予算で作ろうと計画している。

また、ビジネス支援に限らない熊谷図書館全体の利用案内があるが、それは図書館に慣れ親しんでいる人向けのものと思われたので、あまりなじみのない方やビギナー向けに簡潔でわかりやすい利用案内を作成中である。それには、「県立図書館に来れば調べるあなたを応援します。」と課題解決に重点を置いた副題をつけて、市町村立図書館とは違ってよ

り専門的な図書を取り揃え、経験豊かな司書を配置していることなどを記載する予定である。

(5) その他

委員／知りたい情報があるときにインターネットのウィキペディア等から持ってきてしまう。あるいはSNSを使って取ってきてしまう。それに図書館が勝負しても勝てないと思うが、勝てるのがレファレンス機能やビジネス支援機能である。是非それを意識してやっていただきたい。

議事終了

平成28年度の第2回協議会は、10月26日（水）の午後、さいたま市で開催する予定。

12 閉会

〔熊谷図書館 木村教育主幹〕

会議録署名

会 長 \_\_\_\_\_ 印

委 員 \_\_\_\_\_ 印

委 員 \_\_\_\_\_ 印